

卒業論文の結果についてご報告

教育人間学科4年

有馬菜々恵

この度は卒業論文の調査にご協力いただきありがとうございました。

分析の結果がまとまりましたので、この場を借りてご報告させていただきます。

私は今回、「青年期のファン行動に影響する要因 - 自己愛、孤独感及びふれ合い恐怖に着目して - 」というテーマで研究を行いました。

本調査にご協力いただいた皆様は、青年期という時期にあたります。一般に中学生～20代前半を指し、今までの経験や周囲の人の影響から、自己を形成していく時期であり、「この人のようにになりたい」という対象としてファン対象を選択しているのではないかと考えました。この青年期の代表的心性として以下の3つがあります。

■自己愛…自分自身を愛すること。

■孤独感…自分をひとりぼっちだと考え、寂しく感じること。

■ふれ合い恐怖的心性…ある程度の仲までは大丈夫だけど、深い仲になることを恐れること。

そしてこれらがファン行動(好きな有名人に対して行う行動。CDや本を買う、コンサートに行くなど)に影響を与えるのではないかと考えました。本調査の仮説と結果は以下の通りです。

(1)自己愛が高いほどふれ合い恐怖的であり、またふれ合い恐怖的であるほど孤独感を強く感じている。

⇒ふれ合い恐怖と孤独感では相関が見られたが、自己愛の「自己主張性」という下位尺度が強い人はふれ合い恐怖的ではなくなるという結果が出た。

(2)自己愛が高いまたはふれ合い恐怖的かつ孤独感を感じている人ほどファン行動を多く行う傾向にある。

⇒相関は見られず、影響を与えるかどうかはわからなかった。

(3)上の(1)(2)には男女で違いがある。

⇒男子は全体とほぼ同じ傾向の結果となったが、女子は当初の仮説の自己愛的な人ほどふれ合い恐怖的という傾向が見えた。また、自己愛の「自己主張性」がファン行動に影響を与えていることが分かった。

以上の内容から、全体と男子では自己愛、孤独感、ふれ合い恐怖的心性がファン行動に影響を与えるかは分かりませんでした。女子のみ自己愛の「自己主張性」が影響を与えることがわかりました。

ご協力いただいた大正大学の学生の皆様、ありがとうございました。